

今年度も「蓄電池設備整備資格者」に881名が合格

平成20年度の(社)電池工業会「蓄電池設備整備資格者」本講習は、平成20年6月26～27日開催の北海道会場を皮切りに、平成21年1月14～15日開催の福岡県会場まで、全国11の会場で実施され、多数の受講者の参加を得て全日程が無事終了した。

産業の高度化や社会環境の複雑化に伴い、蓄電池設備は、消防設備等の非常電源として非常に重要なものとなっている。

(社)電池工業会は、消防設備等に用いる蓄電池設備を維持管理するため、専門的な知識や技能を有する「蓄電池設備整備資格者」本講習を、平成20年度も下記11の会場で実施した。また、有資格者向けの「蓄電池設備整備資格者」再講習を、別途14の会場で実施した。

その結果、今年度は新たに881名(合格率92.9%)が合格し有資格者となった。

実施会場および合格者は下記の通り。



(本講習)

実施地	実施日	実施会場
北海道	平成20年6月26～27日	札幌市(北海道建設会館)
岩手県	平成20年7月31日～8月1日	盛岡市(岩手県自治会館)
東京都	平成20年8月21～22日	千代田区(第2電波ビル)
愛知県	平成20年8月28日～29日	名古屋市(愛知県産業貿易館)
大阪府	平成20年9月24日～25日	大阪市(大阪府農林会館)
香川県	平成20年10月7日～8日	高松市(香川県建設会館)
愛媛県	平成20年10月21日～22日	松山市(愛媛県水産会館)
鹿児島県	平成20年10月29日～30日	鹿児島市(かごしま県民交流センター)
沖縄県	平成20年11月27～28日	宜野湾市(健康文化村)
神奈川県	平成20年12月4日～5日	横浜市(神奈川県電気工事会館)
福岡県	平成21年1月14日～15日	福岡市(福岡市民防災センター)

平成20年度新規合格者

(あいうえお順・敬称略)

相川 和弘	井口 光男	伊波 雄斗	太田 敏男	甲斐 靖明	北野澤 順	小塚 正人	鯖瀬 哲也
相川 哲也	池 康悦	今井 淳司	大谷 俊郎	戒能 雅哉	北村 隆行	小端 伸二	佐味 信行
相澤 弘志	池崎 祐介	今井 俊一	大津 悟	賀来 伸之	北村 範行	小林 朗	澤居 正章
相内 一泰	池田 一郎	今井 潤	大津 充	郭 義雄	北山 昌大	小林 晶	澤田 孝
相原 準一	池田 千秋	今田 克俊	大塚 秀和	陰山 敏秀	木塚 邦夫	小林 一也	志賀 由彦
相原 庸一	池田 輝生	今西 祐一	大塚 洋史	笠原 秀了	城戸 久	小林 徹朗	重田 正和
青木 公春	池田 利昭	岩朝 勝弘	大塚 裕司	梶原 大右	木下 翼	小林 直樹	重橋 薫
青木 貞次	池田 譲	岩川 淳志	大津留 寿志	片岸 貴義	木村 聡一	小林 正宏	重村 道雄
青木 伸勝	池野 和利	岩沢 哲也	大當 博志	堅田 茂	木藪 直巳	小林 幹夫	篠崎 俊光
阿嘉 勲	池松 恵	岩澤 泰孝	大西 智	勝見 漢太郎	喜友名 俊治	小林 貢	篠澤 祐介
赤井 康裕	石井 博之	岩清水 剛志	大西 毅	加藤 敦	京橋 聖明	小林 良光	篠原 聖二
赤嶺 茂伸	石岡 智之	岩間 和規	大西 利幸	加藤 和幸	清宮 充紀	小淵 啓二	篠原 昂
秋本 哲也	石岡 元喜	岩見 昌俊	大野 剛志	加藤 賢一	吉樂 幸雄	小松 恒寿	四之宮 豊生
秋元 学	石川 英樹	岩本 博	大野 竜也	加唐 弘造	金城 明	小村 岳三	柴田 憲司
朝稲 英太	石川 裕行	上門 直秀	大原 康男	加藤 淳也	金城 和也	小柳 隆夫	柴田 隆研
浅岡 寛樹	石川 義雄	植田 一紀	大場 美津雄	加藤 達雄	金城 安広	近藤 伸一	柴谷 享宏
朝田 隆史	石島 幸人	上野 憲雄	大曲 幸儀	門田 尚昌	上江洲 光律	後藤 純弥	柴山 正二郎
浅見 裕司	石田 昌久	上野 将人	大村 利幸	金丸 宗平	空閑 正芳	後藤 達也	島崎 利広
浅見 善男	石田 英大	上野 祐敬	大森 竜男	金森 雄治	草島 博志	齋藤 郁雄	嶋田 利幸
東 日出海	石戸 圭一	上間 孝史	大矢 順司	金子 貴弘	串間 太郎	齊藤 一彦	島田 久史
東 吉彦	石原 淳	上松 潤哉	大山 隆	兼子 秀樹	楠元 誠	齋藤 圭二	島村 知見
足立 和之	石羽 恵二	上村 高宏	岡 賢	金子 亮一	工藤 伸二	齋藤 大作	清水 清美
安達 孝明	石松 彰	植村 宏和	岡田 拓真	壁山 政美	工藤 陽平	齋藤 秀明	清水 伸
安達 政弘	石丸 素久	氏家 一	岡田 敏昭	神内 知徳	國吉 和夫	齋藤 大	清水 龍一
足立 昌博	石村 晃	内沢 富美博	岡田 昌浩	上川 和之	久保 一義	齊藤 雅樹	下里 広幸
阿部 繁幸	石渡 昭幸	宇戸 隆明	岡村 憲二	神永 幸彦	久保 洋	齊藤 三千雄	下村 秀浩
安部 俊策	伊集院 賢也	梅澤 創	岡村 琢司	亀田 佳明	窪田 晃久	才原 誠司	下村 守
阿部 拓司	和泉 晋	浦 広幸	岡本 鉄也	狩俣 忠昭	熊木 淳一郎	酒井 泰治	正市 和之
安部 洋明	泉 利之	江川 文隆	岡本 直勝	軽部 美佐男	熊澤 義昭	酒井 文夫	庄司 裕
阿部 裕哉	伊勢崎 文晴	江口 銀次郎	岡屋 雄一朗	河井 悠貴	熊野 正宏	酒井 正文	庄司 善将
天野 桂樹	五十川 利夫	江刺家 勝仁	小川 昌洋	川合 慶隆	熊丸 雄介	酒德 重典	正中 浩史
天久 齐	磯田 信二	江良 博文	奥田 則雄	川上 篤利	倉田 憲明	坂庭 直樹	白井 宏明
新井 哲也	板倉 浩二	円藤 健一	奥原 宗和	川口 一義	蔵根 亮	坂本 浩三	白石 忍
新井 弘幸	板谷 寿志	遠藤 隆一	小倉 宏之	川口 雅也	倉林 清文	坂本 祐貴	新城 隆治
荒井 満則	市川 文則	及川 一洋	小山内 信幸	川崎 善彦	倉持 昌成	佐川 慶信	上西 稔人
荒川 史朗	市野 和之	及川 伸吾	長部 行秀	川島 伸行	栗田 典一	崎山 宏幸	末吉 雄二
荒木 幹斗	井筒 省吾	及川 雅浩	小島 文秋	河田 真二	栗田 泰行	佐々木 英治	菅井 伊織理
荒木 道大	伊藤 茂夫	大井 康弘	尾曾 智重	河内 知之	栗原 拓也	佐々木 和人	菅沼 玲
荒山 春美	伊藤 卓弥	大石 貴浩	小田 諭志	川西 善章	栗本 明典	佐々木 弘幸	菅野 知巳
有明 弘樹	伊藤 龍也	大石 康郎	小田 義幸	川満 秀吉	栗谷 一秀	佐々木 義次	菅原 和宏
有島 和隆	伊藤 智之	大泉 龍一	小田嶋 伸幸	川村 幹信	黒澤 祐次	貞廣 亮	菅原 章太
有吉 伸行	伊藤 友泰	大川 憲一	乙 好行	川村 洋子	毛戸 寛	佐藤 公治	菅原 守
粟倉 和也	伊藤 寛晃	大久保 義嗣	音田 明	川本 徹	小井土 孝尚	佐藤 重春	杉江 輝秋
粟倉 巧	伊藤 政利	大越 竜二	小野沢 幸司	川和田 直希	香西 弘之	佐藤 慎也	杉野 通洋
安西 剛志	伊藤 友一	大島 邦廣	小野寺 健司	菅野 徹	幸地 真紀	佐藤 進	杉町 和則
安藤 史仁	伊藤 義昭	大城 進	小野寺 博之	菊池 弘二	高野 天平	佐藤 勉	杉本 健
飯尾 厚	伊奈 典彦	大城 崇	小野寺 誠	菊池 勉	鴻野 豊	佐藤 哲也	杉本 紀文
飯岡 努	稲福 盛儀	大城 務	小幡 智治	菊池 信哉	古後 隆弘	佐藤 浩信	杉山 正和
飯島 勲	稲嶺 優志	大城 健之	尾林 大介	菊池 祐二	小櫻 良久	佐藤 広光	菅野 晋
飯島 博和	乾 哲	大城 英一	小柳 誠	木口 卓	小清水 孝圭	佐藤 正明	鈴木 聡志
飯田 二三夫	犬塚 雅人	大城 宏	尾山 邦雄	岸本 修一	小島 寿和	佐藤 学	鈴木 隆司
五十嵐 達次	井上 一秀	大城 豊	小祿 剛	喜多 則文	小島 知也	佐藤 陽一	鈴木 寿明
五十嵐 啓之	井上 勇人	大路 和吉	恩田 貞明	北坂 政裕	小島 実	里野 辰弘	鈴木 敏正
五十嵐 稔	猪瀬 悟	太田 克俊	恩田 静江	北田 哉	小島 祥美	佐野 健一	鈴木 齐
生田 誠次	伊野波 盛道	太田 悟	恩田 秀樹	北館 忠生	小嶋 礼男	佐野 孝弘	鈴木 博

鈴木	雅人	辰巳	正明	中井	滋	新田	宗一	福田	穂	増原	賢一郎	武藤	博文	山村	京一
鈴木	真人	館野	勝美	中井	康之	二宮	浩一	福永	健治	升本	秀則	村上	樹	山村	正行
鈴木	義明	立松	克英	中井	義博	根岸	茂之	藤井	幸次	増山	重弘	村上	智彦	山村	安司
鈴木	淑永	田中	栄三	中尾	宏司	野田	克明	藤井	武	町田	修	村里	卓郎	山本	卓己
鈴木	好幸	田中	和志	中垣	潤也	野田	純一	藤井	敏広	松岡	孝明	村嶋	正義	山本	武志
鈴木	敬史	田中	国彦	中川	誠一	野田	満則	藤井	均	松岡	尚司	村田	一樹	山本	徳之
須藤	高弘	田中	敬一	中川	寛康	野中	大介	藤尾	裕昭	松川	淳一	村田	恭史	山本	浩貴
須藤	政身	田中	康平	中里	薫	登	源太	藤川	聖基	松木	洋明	村田	勇二	山本	潤一
住本	憲生	田中	里司	仲里	康	野村	正人	藤川	義之	松下	真人	村田	謙	屋良	幹夫
瀨尾	真也	田中	悟	中澤	孝章	萩岡	政一	藤澤	佑輔	松田	英之	村並	秀和	横井	昌能
関	英兒	田中	志郎	中嶋	賢太郎	萩田	航	藤島	裕章	松田	光治	村山	和博	横川	徹
関	忠晴	田中	秀哲	中嶋	治	萩野	政俊	藤田	一	松林	幸夫	村山	強平	横川	英基
関	守	田中	有基	中嶋	浩二	橋詰	直明	藤村	儀一	松原	和司	元村	一也	横山	武
関	一夫	田辺	一成	中嶋	茂	橋本	健次	藤村	裕喜	松丸	真吾	百々	洋己	吉川	一行
相馬	公三	谷	伊一	中島	丈晴	橋本	知宏	藤本	康彦	松本	健伺	森	優	吉川	慶徳
槽谷	道明	谷口	一也	中島	基雄	土師	一成	藤本	泰久	松本	浩一	森口	英亮	吉澤	茂美
曾川	英男	谷口	崇	中田	稔	蓮見	幸男	藤本	森雄	松本	定行	森下	正博	吉沢	裕次
曾根	龍一	谷口	岳司	仲地	佑貴	長谷川	昌幸	藤原	祐一	松本	修司	森長	剛	吉田	明郎
園部	光昭	谷口	大治	中塚	栄	畑	竜一	二上	富名	松本	清次	森本	博之	吉田	恭平
曾羽	良年	谷山	新吾	中野	憲彦	畑内	繁宏	富名	腰	松本	寛	森山	康孝	吉田	昭治
高江洲	義尚	種子田	幸雄	中野	博行	嶋山	太志	船引	敏光	松元	良一	八切	好司	吉田	正杉
高木	稠尚	玉城	綾乃	仲原	康則	嶋山	博世	古家	昭一	真部	建吾	八木	宏和	吉田	康朗
高木	源治	玉城	善一	仲林	誠	畑中	理	古下	勝利	圓尾	忠之	安江	一則	吉田	祐介
高木	丈夫	玉城	佳一	中東	修	羽田野	健次	古田	晋介	丸山	知男	安江	誠二	吉弘	幸徳
高木	尚裕	田村	辰也	中平	泰裕	服部	裕一	古橋	良友	丸山	春樹	安田	博司	吉見	広文
高木	泰則	田村	一也	中村	英一	花邑	義之	古谷	宣満	三浦	功次	安田	徹	吉満	聡
高里	祥	田村	剛	中村	聡	塙	濱中	外間	海人	三浦	亮一	安本	英樹	吉村	聖賢
高野	健太郎	田村	信男	中村	修二	濱平	洋貴	保崎	吉伸	三鬼	良	保森	敦史	吉村	武昭
高野	修一	丹	一浩	中村	英昭	早川	紀文	星原	正典	水内	健治	矢田	要介	吉村	岳洋
高野	利宏	千葉	和正	中屋	裕志	早川	正史	細井	淳司	水江	忠光	柳	政広	吉村	哲也
鷹鷲	拓	千葉	直人	中山	耕一	早川	政志	細川	幸廷	水越	洋	柳瀬	英司	吉村	成人
高橋	潔	知花	久	長尾	公司	原	寛太郎	穂積	力	水野	宏昭	矢野	祐介	米川	満春
高橋	功一郎	帖佐	茂樹	永坂	亮輔	原國	政良	堀	則行	溝口	忠	矢野	芳夫	饒平名	康
高橋	光一郎	珍田	巧	永島	忠司	原田	正幸	堀	安德	溝部	仁志	矢野	正樹	領家	行宏
高橋	幸二	塚本	雅美	永瀬	康博	比嘉	健一	堀川	総一郎	三谷	信介	矢原	正治	若木	寛
高橋	智	津田	和明	長沼	謙介	比嘉	勉	堀口	辰弥	道畑	優幸	藪口	基次	若園	康明
高橋	祥平	土山	登	長野	美都穂	比嘉	永英	本庄	昭彦	三橋	智戒	山内	康弘	脇坂	秀志
高橋	司	燕	英明	長見	真也	比嘉	良朋	本田	剛	三屋	直也	山内	光次	鷲山	浩史
高橋	秀忠	鶴田	誠	長嶺	秀朗	東	浩康	本田	剛	峰	昌敏	山岸	惠愛	渡辺	明比古
高橋	政広	寺尾	博志	永峰	章	東出	一洋	米田	和司	宮城	徹	山口	孝二	渡邊	圭一郎
高橋	方幸	寺崎	和良	成毛	敦司	日紫	喜一	前	裕行	宮城	勝己	山口	秀和	渡部	賢二
高谷	吉治	寺地	哲男	鳴海	靖	日高	豊明	前川	修	宮國	正伸	山口	祐喜彦	渡部	保
滝下	佳秀	寺谷	幸	難波	裕一	秀山	達郎	前武	田	三宅	明	山口	清二	渡邊	信幸
宅野	彰将	照喜	名	新名	次郎	日野	仁志	前田	健	宮崎	毅	山崎	尚彦	渡辺	誠
田口	慎	照屋	和幸	西川	常男	平井	浩	前田	典辰	宮崎	諒一	山下	浩司	渡邊	将史
武井	桂	照屋	智仁	西川	典夫	平井	智隆	前田	則行	宮澤	学	山下	奉之	渡邊	芳之助
竹内	竜彦	戸梶	昌昭	西川	真樹	平岩	登美男	前田	浩史	宮沢	宗生	山城	洋倫	渡部	康二
竹内	好博	徳重	康	西垣	悠	平子	祐二	前田	勇一	宮城	平	山城	健	和	一毅
竹内	頼孝	渡久	康	西園	隆幸	平田	聡	前田	善成	宮原	寿和	山田	郁夫		
竹下	正裕	戸塚	隆久	西野	啓太	平田	雄志	前田	文孝	宮本	秋男	山田	一期		
武田	幹彦	戸塚	洋一	西野	剛	平塚	康児	牧田	正仲	三輪	健次	山田	順弘		
武長	伸治	富永	浩治	西濱	信	廣瀬	次生	牧野	賢司	向井	孝	山田	雅一		
武藤	康隆	友藤	健太郎	西原	満	福井	毅	増田	明彦	向	保則	山田	竜太		
田代	憲司	土井	敏夫	西村	信宏	福澤	昭雄	増田	修	武藤	裕明	山野	勝利		
田代	博士	土居													

平成20年度第4回一次電池部会開催

平成21年2月20日、機械振興会館において雨宮部会長（FDK（株））を議長に、平成20年度第4回一次電池部会を開催した。部会長および専務理事の挨拶に続き、事務局報告、各委員会からは平成20年度活動結果と平成21年度活動計画の報告があった。

1. 雨宮部会長挨拶

世界経済は大変厳しい状況になっているが、それに比べると一次電池市場はまだましな状況である。しかし来期は厳しい状況になるのではないかと思う。会員各社不況を乗り越えて頑張っていたきたい。

2. 中谷専務理事挨拶

経済状況が悪くなっており、来年度の会費は抑える方向でいくが工業会の活動は停滞しないようにする。無駄な出費を抑えたい。

3. 事務局報告（事務局）

(1) 統計資料報告

- ・12月度は、数量で前年比79%、金額で同84%と過去最悪であった。
- ・2008年の年間、一次電池全体では数量で前年比92%、金額で同91%となり、9年連続前年割れであった。アルカリ乾電池は数量で前年比106%、金額で同100%であった。

4. 委員会報告

(1) 広報委員会（代理：事務局）

- ・H20年度は、「電池は正しく使いましょう」キャンペーンでは、56,000通もの応募があった。「電池教室」は、全国15ヶ所で開催し850名の子供達が参加。また「ホームページ」は、トップページの大幅な変更や電池の安全で正しい使い方、使用済み電池の処理方法とリサイクルの情報を充実させた。小冊子「WE LOVE DENCHI」、啓発ビデオ「ユニット博士の未来の電池」の改訂等を実施。「でんちフェスタ」は、11月1日に日本科学未来館で開催し過去最高の2,400名参加があった。また今年度から初めて「関西でんちフェスタ」を8月19日に行った。



「プロ野球最優秀バッテリー賞」は、12月6日に有明コロシアムで開催した。

- ・H21年度は、前年度に引き続き「電池PRキャンペーン」、「電池教室」「みらいの電池アイデアコンテスト」「ホームページ改定」「啓発資料冊子改訂」等を行う。イベント関係では、「関西でんちフェスタ」「でんちフェスタ」「プロ野球最優秀バッテリー賞」のさらなる充実を図る。新規イベントの検討も開始する。

(2) 資材委員会

（神谷委員長）

- ・H20年度は、「電池主原料6種の市場動向分析」を行った。年度初めに高騰していた資材価格は9月以降は急激に変化し、調査結果を年度末には大きく見直した。
- ・H21年度は、不況下における「取引先のリスク管理について検討」を行う。原材料市場動向や材料調達統計は、前年に引き続き実施する。

(3) PL委員会

（鈴木委員長）

- ・H20年度は、「2007年度事故事例集計」を行った。また、(社)日本玩具協会との意見交換会開催する

(2月末)。また、電池工業会ホームページの電池の正しい使い方ページの一次電池関係部分を改訂した。一次電池、二次電池、小形二次電池の合同PL委員会開催を10月2～3日に開催し、意見交換を行った。

- ・H21年度は、電池事故事例の情報解析、消費者啓発資料作り推進、他業界との意見交換、器具委員会との意見交換、弁護士勉強会開催、等の活動を予定している。

(4) 器具委員会 (山本委員長)

- ・H20年度は、「電池工業会規格 SBA S1601携帯電灯」の改訂を行い、新たにLEDライトの規格内容の盛り込みを行った。3月に改訂版の印刷・発行を予定。また、製錬所のリサイクル工場見学を実施した。「電池工業会規格 SBA S1602防犯ブザー」の内容改訂も審議した。
- ・H21年度は、「電池器具安全確保のための表示に関するガイドライン」の見直し、「電池工業会規格 SBA S 1602防犯ブザー」の改訂、豆球製造工程見学、「電池工業会規格SBA S 1601 携帯電灯」のPR活動、等を行う。

(5) 技術委員会 (伊東委員長)

- ・H20年度は、①JIS小委員会では、「JIS C 8500一次電池通則」改正が作業完了し6月公示予定。「JIS C 8513リチウム一次電池の安全性」は審議終了し2月JSA提出。「JIS C8515一次電池個別製品仕様」は改正作業に2月より着手する。
- ②IEC小委員会では、IEC60086-1 (Ed.11) メンテナンス、IEC60086-2 (Ed.12) メンテナンス、IEC60086-3 (Ed.3) メンテナンス、IEC60086-5 (Ed.3) メンテナンスを行った。
- ③リチウム小委員会では、国際電池輸送委員会に参画し、1月1日施行の新リチウム輸送規制を中心に情報収集を行った。
- ④国際会議 IEC/TC35 (一次電池専門委員会) には、年2回参加し審議した。
- ⑤評価試験WGを設置し、「加速試験法」の確立を目指す。来期まで活動する。

- ・H21年度は、①JIS小委員会では、「JIS C8513リチウム一次電池の安全性」(IEC60086-4 Ed.3の翻訳) フォロー、「JIS C8515一次電池個別製品仕様」(IEC60086-2 Ed.11の翻訳) 改正、JIS C8500「一次電池通則」(IEC 60086-1 Ed.11の翻訳) 改正、を実施する。

②IEC小委員会では、IEC60086-1 (Ed.11) メンテナンス、IEC60086-2 (Ed.12) メンテナンス、IEC60086-3 (Ed.3) メンテナンス、IEC60086-5 (Ed.3) メンテナンス、を行う。

③リチウム小委員会では、国際電池輸送委員会に参画する。

④IEC/TC35(一次電池専門委員会)は、国際幹事としての業務を遂行する。

(6) 業務委員会 (滝本委員長)

- ・H20年度は、一次電池の国内需要予測、及び海外からの輸入量調査を行った。海外製品の同梱電池については、含有成分を調査した。また、ボタン電池回収推進委員会と連動し4月からの実施に向け活動した。二次電池リサイクル工場見学や電池工業会「公正競争規約」の制定に着手、等を実施した。
- ・H21年度は、一次電池の国内需要予測、電池工業会「公正競争規約」策定、ボタン電池回収事業の円滑推進への協力、および工場見学を計画する。

(7) 環境対応委員会 (阿部委員長)

- ・H20年度は、欧州電池指令(2006/66/EC)への対応、EU以外の海外一次電池に関する電池規制への対応、欧州新化学品規制(REACH)への対応、各委員会との連携、TWGへの参加、リサイクラー視察を行った。
- ・H21年度は、欧州電池指令(2006/66/EC)の対応、海外環境関連法規制への対応、欧州新化学品規制(REACH)への対応、BAJ環境関連委員会との連携強化、一次電池のリサイクル及び回収実態確認、を計画する。

日本の電池の始まり (4)

日本の蓄電池工業のはじまりは、明治16～17年（1883～1884年）頃、工部省電信局電気試験所で一次電池が点灯用として利用されていたのに端を発して、同試験所長吉田正秀の指導のもと加藤重教が、鉛板、光明丹、リサーチ等を用いて研究を始めました。続く明治18～19年（1885～1886年）頃には、広瀬新が夜間砲弾発射点灯用として蓄電池を使用しようとして小規模ながら蓄電池製造を試みましたが、その後はほとんど蓄電池に関する研究は行われませんでした。

明治28～29年（1895～1896年）頃、島津製作所の二代目島津源蔵は、ホプキンス著の *Experimental Science* にある蓄電池極板を初めて試作しました。これが日本における鉛蓄電池極板製造の始まりとされています。明治30年（1897年）には京都帝国大学より感応コイル電源として蓄電池の注文を受け、1枚の極板大きさが100×115×4 mmで10Ah程度の蓄電池を納入しました。これは蓄電池製造ということで見れば、まだ揺籃期とも言えないものでした。

この頃から一般学校教育機関の整備と共に理化学機材に対する需要も起り、これに応ずるため島津製作所は従来の工場が手狭になったので、京都

河原町二条に併設工場を移して研究を進め製品の改良をはかりました。同工場は15坪程度の理化学機械実験室と、15坪程度の蓄電池工場を設け、以前の倍の大きさの極板を製作することが可能となりました。ここで作られた蓄電池は主に木箱入りで、小形携帯用のペースト式のものでした。

明治35～36年（1902～1903年）頃は、電灯事業はまだ黎明期の域を脱しない過渡期で、その頃の発電設備は不完全でしばしば停電や故障が続出していました。それで絶えず灯光を必要とする劇場や映画館では、予備電源として蓄電池が重要なものになっていました。また、通信、鉄道、電力、等の事業では、大形の据え置き蓄電池が備えつけられるようになっていましたが、これらはすべて欧米からの輸入品でした。

これら輸入品に対抗するために、島津製作所はクロライド式蓄電池の製造に着手し、苦心の末150Ah容量の据え置き電池を80個作ることができ、自家用予備電源として工場に据え付けることができました。この電池は、後日においては海軍の無線通信用として大いに利用されることになります。また、全国各地の劇場や学校、デパート等の予備電源用としても利用されることになります。

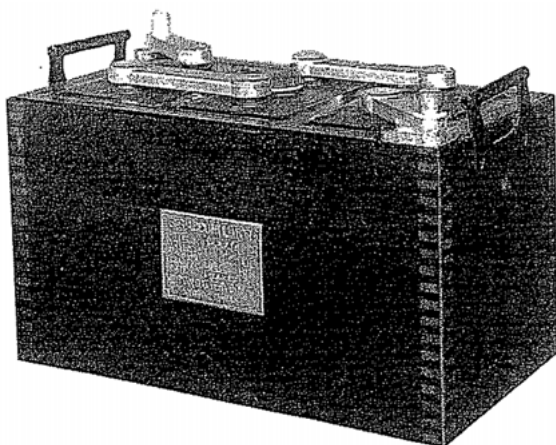


図1. 木箱入り蓄電池

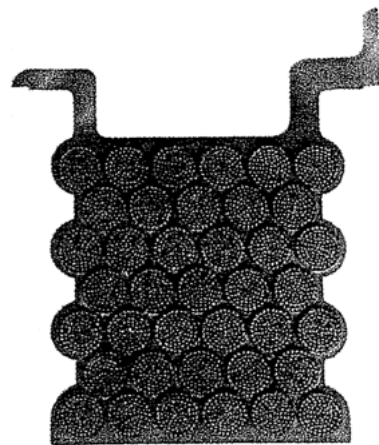


図2. クロライド式正極板

平成21年2月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	6日(金)	広報総合委員会	H20年度活動実績まとめ、H21年度活動計画審議。
	13日(金)	臨時JEA蓄電池設備認定委員会幹事会	直交変換装置を有する蓄電池設備に関する認定基準について審議した。
	18日(水)	T17回JEA蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備資格審査案件1件、及び蓄電池設備の型式認定案件18件を審査し、型式認定案件1件を保留とし、他18件を承認した。
二次電池部会	2日(月)	直需分科会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討、他。
	5日(木)	自動車用電池リサイクル特別委員会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討。
	6日(金)	自動車鉛分科会	SBA、JIS内容審議、他。
	10日(火)	自動車用電池委員会	JIS表記問題検討。
	12日(木)	電気車鉛分科会	SBA内容改正審議、他。
	13日(金)	据置鉛分科会	JIS改正案調査研究、他。
	13日(金)	需要予測分科会	2009年度需要予測審議。
	16日(月)	資材委員会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討、他。
	17日(火)	産業用電池委員会	産業用電池のリサイクルについて、他。
	18日(水)	産業電池リサイクル委員会・電気車用電池リサイクル分科会	産業用電池リサイクルスキームの検討/フォークリフト用電池リサイクルスキームの検討。
	19日(木)	小形鉛分科会	IEC改正案調査研究、他。
	20日(金)	用語分科会	SBA改正案審議、他。
	20日(金)	充電器分科会	充電器分科会技術資料「耐震措置の点検方法について」の改正審議、他。
	20日(金)	資材委員会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討、他。
	25日(水)	二次電池部会	H20年度活動実績と、H21年度活動計画の審議。
27日(金)	EV用電池委員会	技術情報、SBA改正審議、他。	
小形二次電池部会	4日(水)	海外環境委員会	海外環境規制に関する情報確認。
	5日(木)	国際電池規格会議	IEC/SC21A/WG5の対応策審議、韓国規格情報連絡。
	6日(金)	LIB安全性技術委員会	IEC62133審議、海外安全規格コメント対応審議。
	6日(金)	PL委員会	事故情報の取り扱い審議。
	16日(月)	小形二次電池技術委員会	H20年度活動実績と、H21年度活動計画の審議。
	19日(木)	中国規格WG	中国LIBリチウムイオン安全規格対応審議。
	20日(金)	リチウム二次分科会	JIS C 8712の改訂審議。
	24日(火)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	25日(水)	小形二次電池部会	H20年度活動実績と、H21年度活動計画の審議。
26日(木)	業務委員会	1月度販売状況の検討及び動態確認。	
一次電池部会	4日(水)	環境対応委員会	EU新電池指令他海外法規制調査、来期事業計画。
	5日(木)	技術委員会WG	加速試験評価方法の検討。
	5日(木)	業務委員会	表示方法について。
	5日(木)	器具委員会	H20年度活動実績まとめ、H21年度活動計画作成。
	19日(木)	IEC小委員会	35/1266e/CC シンボルマーク、IEC60086-2 MAD値検討。
	19日(木)	JIS小委員会	JIS C 8513改正原案のJSA提出前確認、JIS C 8515改正案検討。
	20日(金)	一次電池部会	各専門委員会のH20年度活動実績とH21年度活動計画について。
27日(金)	PL委員会	玩具協会との情報交換会。	

2008年電池の総生産額は8,461億円

経済産業省機械統計によると、2008年の電池の総生産額は8,461億円で、昨年比110%と増加した。しかし、電池総生産数は53.8億個で昨年比94%と減少しており、特に一次電池の生産数量が昨年比88%と減少した。また種類別では、他の一次電池（マンガン乾電池を含む）が大きく減少し、またアルカリ蓄電池（ニカド電池）も減少傾向が続いている。一方、リチウムイオン二次電池は、金額3,858億円（昨年比122%）、数量1,189百万個（昨年比113%）共に着実な伸びがみられた。

電池の総生産

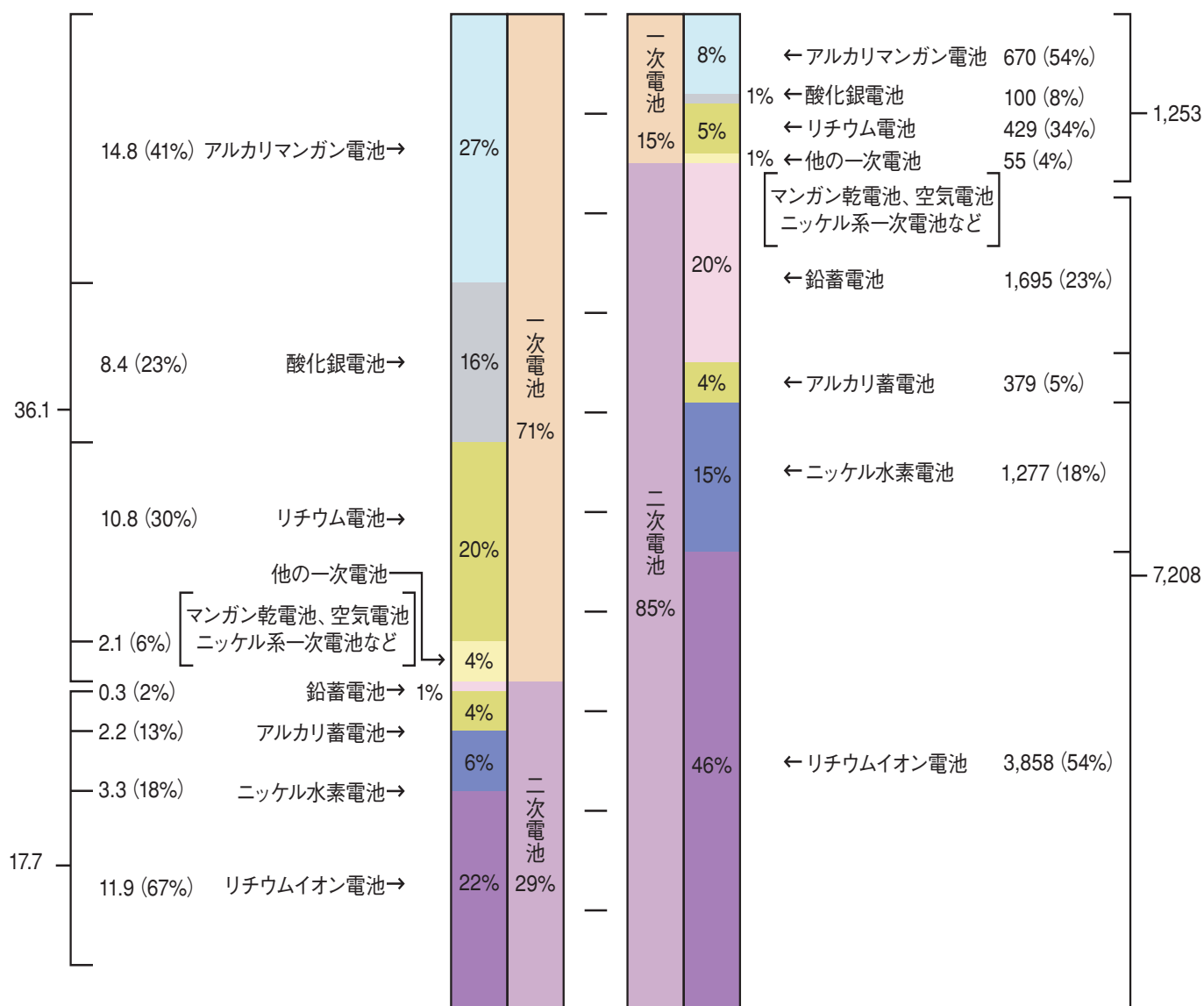
(2008年)

総数 53.8億個

総額 8,461億円

単位:億個

単位:億円



12月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2008年12月）

単位：数量—千個、金額—百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	444,324	61,298	76%	77%	5,962,844	874,152	98%	108%
一次電池計	336,492	13,030	79%	84%	4,031,173	133,167	93%	93%
マンガン乾電池	20,589	632	45%	66%	274,600	5,651	54%	67%
アルカリ乾電池計	167,515	7,959	98%	102%	1,541,518	64,273	113%	105%
単三	100,331	4,023	105%	112%	935,466	32,791	120%	111%
単四	40,411	1,711	88%	99%	393,366	14,648	104%	99%
その他	26,773	2,225	92%	89%	212,686	16,834	104%	101%
酸化銀電池	53,742	715	90%	94%	829,963	10,303	95%	97%
リチウム電池	85,147	3,435	69%	77%	1,272,848	49,008	94%	96%
その他の乾電池	9,499	289	35%	20%	112,244	3,932	50%	32%
二次電池計	107,832	48,268	68%	75%	1,931,671	740,985	107%	111%
鉛電池計	3,119	15,762	87%	82%	34,217	182,251	91%	113%
自動車用	2,346	10,400	88%	80%	24,042	111,498	92%	115%
二輪用	247	686	78%	78%	2,857	8,058	75%	96%
小形制御弁式	313	776	85%	92%	4,350	10,474	94%	107%
その他	213	3,900	88%	90%	2,968	52,221	102%	115%
アルカリ電池計	41,864	11,278	75%	72%	641,343	168,311	103%	97%
完全密閉式	13,798	2,101	59%	55%	233,504	37,242	86%	79%
ニッケル水素	28,055	8,907	85%	78%	407,705	127,965	116%	104%
その他のアルカリ電池	11	270	92%	67%	134	3,104	98%	96%
リチウムイオン電池	62,849	21,228	63%	71%	1,256,111	390,423	110%	117%

12月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2008年12月）

単位：数量－千個、金額－百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	199,416	25,147	75%	68%	3,243,551	469,001	100%	112%
一次電池計	108,472	2,168	87%	80%	1,599,541	34,172	96%	90%
マンガン	5,983	156	26%	46%	146,717	2,422	47%	58%
アルカリ	25,426	381	111%	110%	392,856	6,326	135%	120%
酸化銀	34,074	399	128%	104%	472,731	5,982	105%	96%
リチウム	41,273	1,208	83%	76%	562,175	18,911	95%	88%
空気亜鉛	1,579	21	79%	57%	19,881	326	100%	97%
その他の一次	137	4	178%	60%	5,181	204	183%	60%
二次電池計	90,945	22,979	65%	67%	1,644,010	434,829	104%	114%
鉛蓄電池	162	736	87%	83%	2,348	11,300	105%	111%
ニカド	10,273	1,164	52%	41%	194,409	22,705	87%	79%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	198	27	7818%	501%
ニッケル水素	14,052	4,024	81%	78%	196,143	54,411	114%	108%
リチウムイオン	60,668	15,096	67%	66%	1,151,820	315,187	111%	121%
その他の二次	5,790	1,959	50%	77%	99,091	31,199	67%	97%
全電池合計（輸 入）	112,953	7,186	129%	86%	1,003,552	96,388	118%	99%
一次電池計	106,673	1,385	136%	108%	894,845	13,811	121%	93%
マンガン	39,708	539	270%	411%	272,254	3,441	246%	279%
アルカリ	57,688	588	111%	88%	509,760	6,085	102%	85%
酸化銀	832	12	312%	232%	5,163	94	153%	107%
リチウム	7,597	189	87%	61%	82,516	3,015	84%	64%
空気亜鉛	219	11	28%	40%	7,810	282	89%	87%
その他の一次	629	46	29%	31%	17,342	894	106%	65%
二次電池計	6,281	5,801	72%	82%	108,707	82,577	97%	100%
鉛蓄電池	672	2,145	85%	74%	7,747	29,989	96%	111%
ニカド	1,040	368	129%	100%	14,036	4,310	87%	89%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	181	46	60%	26%
その他の二次	4,569	3,289	65%	86%	86,743	48,233	99%	95%